

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題o-アセト酢酸トルイジドのオオミジンコ(*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験試験番号

92051

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験及び繁殖試験」(1984年4月採択)の改訂版であるガイドラインNo.211「オオミジンコ繁殖試験」(1997年4月提案)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： o-アセト酢酸トルイジド
- 2) 試験生物： オオミジンコ(*Daphnia magna*)
- 3) 生物数： 10頭/1試験区(1連につき1頭で1試験区10頭)
- 4) 暴露期間： 21日間
- 5) 暴露方式： 半止水式(週に3回、試験液を交換)
- 6) 試験濃度： 80.0、40.0、20.0、10.0及び5.00 mg/L(公比：2.0)、助剤対照区及び対照区
- 7) 連 数： 1試験区につき10連
- 8) 試験液量： 1試験容器(1連)につき80.0 mL
- 9) 試験水温： 20±1℃
- 10) 照 明： 16時間明(1,200 lux以下)/8時間暗
- 11) 試験液中の被験物質の分析： 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)
(0、2、9、12、14及び16日目)

結 果

- 1) 21日間の親ミジンコの50%致死濃度(LC50)
 >80.0 mg/L
 - 2) 21日間の50%繁殖阻害濃度(EC50)
 =16.5 mg/L(95%信頼限界：15.0~18.0 mg/L)
 - 3) 最大無作用濃度(NOEC)
 =10.0 mg/L
 - 4) 最小作用濃度(LOEC)
 =20.0 mg/L
- (上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

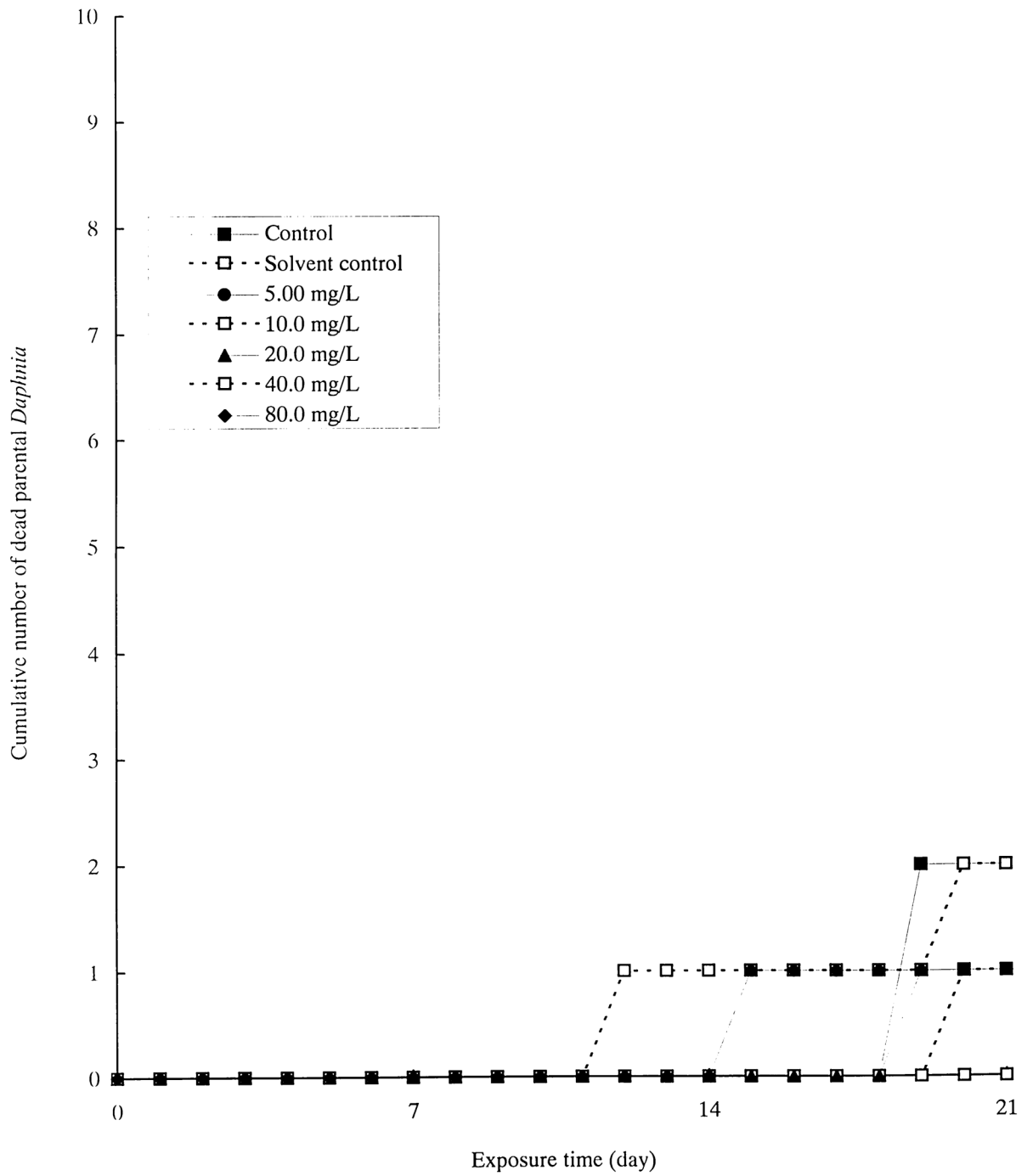


Figure 1. Cumulative number of dead parental *Daphnia*.

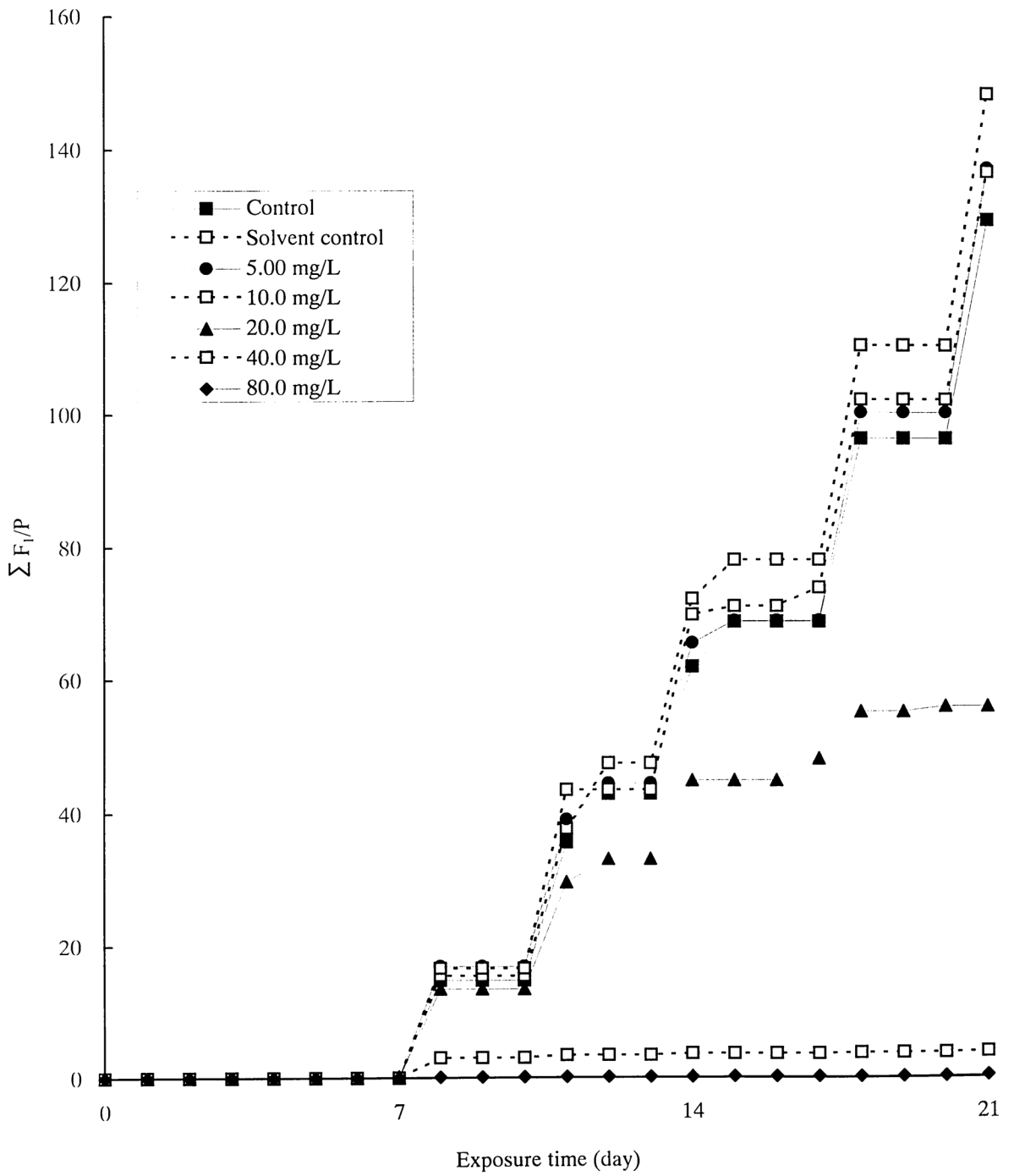


Figure 2. Mean cumulative number of juveniles produced per adult ($\Sigma F_1/P$).

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題o-アセト酢酸トルイジドのヒメダカ(*Oryzias latipes*)に対する急性毒性試験試験番号

92052

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.203「魚類急性毒性試験」(1992年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： o-アセト酢酸トルイジド
- 2) 試験生物： ヒメダカ(*Oryzias latipes*)
- 3) 生物数： 10尾／1試験区(1連につき5尾で1試験区10尾)
- 4) 暴露期間： 96時間
- 5) 暴露方式： 半止水式(1日に2回、試験液を交換)
- 6) 試験濃度： 100 mg/L、助剤対照区及び対照区
- 7) 連 数： 1試験区につき2連
- 8) 試験液量： 1試験容器(1連)につき2.5 L
- 9) 試験水温： 24±1℃
- 10) 照 明： 室内光、16時間明／8時間暗
- 11) エアレーション： なし
- 12) 試験液中の被験物質の分析： 高速液体クロマトグラフィー(HPLC)
(暴露開始時、換水前)

結 果

- 1) 96時間の半数致死濃度 (LC50) >100 mg/L
- 2) 0%死亡最高濃度 ≥100 mg/L
- 3) 100%死亡最低濃度 >100 mg/L
(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

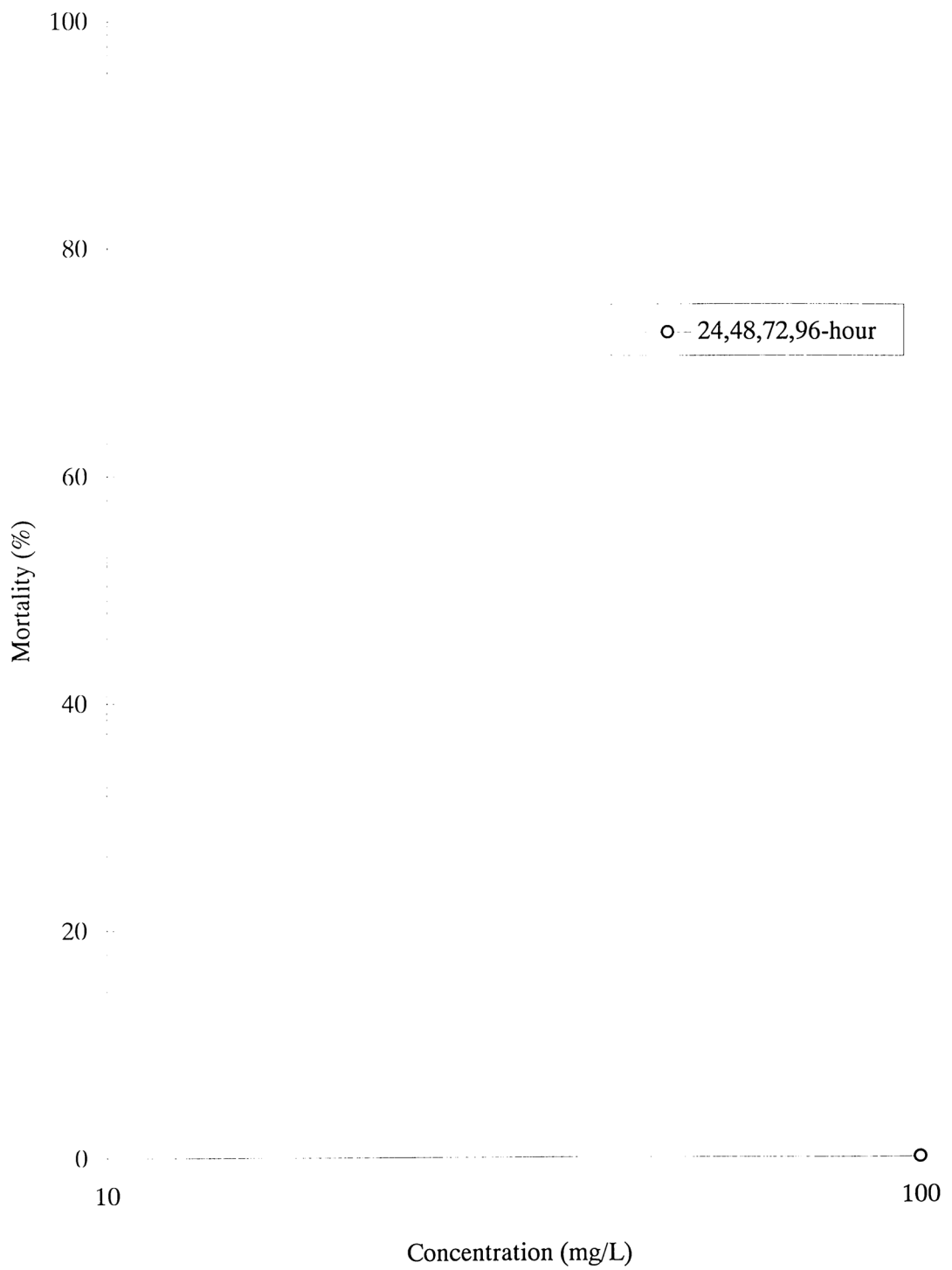


Figure 1. Concentration - toxicity curve of *o*-acetoacetotoluidide in orange killifish (*Oryzias latipes*).